

北海道における酪農経営の離脱状況について

(令和6年2月1日～令和7年1月31日)

令和7年7月
北海道農政部生産振興局畜産振興課

1 調査方法

- 道が市町村と連携し、学校・試験場を含めた道内の生乳出荷者を対象に、調査を実施した。

対象期間：令和6年2月1日～令和7年1月31日
「離脱」の定義：離農や酪農以外への経営転換により、生乳出荷を中止することを「離脱」としており、協業法人化のために個別経営体が出荷中止することも離脱に含まれる。

2 調査結果

(1) 生乳出荷戸数

- 1年間に新規参入が15戸あったものの、220戸が離脱したため、205戸の減少となった。協業法人化・既存法人への合併による離脱はなかった。
- 全道の生乳出荷戸数の減少率は4.45%で、前年の4.58%を0.13ポイント下回った。
- 振興局別の生乳出荷戸数減少率は、胆振が9.33%と最も高く、次いで、留萌、後志の順となった。

(2) 離脱要因と離農後の状況

- 離脱の要因は、「離農」と「経営転換」に分類され、離農は64.5%、経営転換は35.5%となっている。
- 離脱の要因は、「高齢化と後継者問題」による離農が29.5%と最も高く、次いで「乳雌育成部門」への経営転換（15.9%）、「負債問題」による離農（11.4%）、「経営者の事故・病気・死亡」による離農（8.6%）の順となっている。
- 離農後の状況は、「無職」（38.7%）が最も高く、「不明」を除けば、次いで「他産業への従事」（21.8%）が高い。

□ 生乳出荷戸数

時点	令和7年2月1日
生乳出荷戸数	4,398戸

□ 離脱及び新規参入の推移

(単位：戸、%)

期間	31.2～R2.1	R2.2～R3.1	R3.2～R4.1	R4.2～R5.1	R5.2～R6.1	R6.2～R7.1
離脱戸数 ①	196	142	170	244	246	220
協業法人化による離脱を除く	183	138	156	241	246	220
新規参入戸数 ②	23	29	21	22	25	15
減少戸数 (①-②)	173	113	149	222	221	205
経営転換戸数	74	52	48	76	70	78
減少率	3.16%	2.13%	2.87%	4.40%	4.58%	4.45%

□ 生乳出荷戸数の減少率（振興局別）

空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	
6.38%	1.96%	8.33%	9.33%	0.00%	7.08%	3.33%	
留萌	上川	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室	全道
8.65%	5.58%	3.95%	5.56%	3.15%	6.43%	3.04%	4.45%

□ 離脱要因と離農後の状況

(単位：戸)

離農	経営転換						経営転換							合計
	高齢化と後継者問題	労働力不足	将来への不安	負債問題	経営者の事故・病気・死亡	その他	乳雌育成部門	畜産部門	耕種部門	飼料作物生産	その他農業経営部門	法人化		
142 (64.5%)	65 (29.5%)	9 (4.1%)	13 (5.9%)	25 (11.4%)	19 (8.6%)	11 (5.0%)	78 (35.5%)	35 (15.9%)	14 (6.4%)	15 (6.8%)	14 (6.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	220 (100.0%)
離農後の状況	他産業への従事	無職	経営者の死亡	法人等の従業員	不明									
	31 (21.8%)	55 (38.7%)	2 (1.4%)	14 (9.9%)	40 (28.2%)									

(3) 飼養頭数規模別の離脱戸数及び要因

- 離脱戸数を飼養頭数規模別にみると、100頭未満の階層が216戸で、全体の98.2%と大宗を占めている。
- 100頭未満の階層の離脱要因としては、「高齢化と後継者問題」による離農が63戸（29.2%）と最も多く、次いで「乳雌育成部門」への経営転換が35戸（16.2%）、「負債問題」による離農が25戸（11.6%）となっている。
- 100頭以上の階層の離脱戸数は4戸であり、その内訳は「高齢化と後継者問題」による離農が2戸、次いで「労働力不足」による離農が1戸、「耕種部門」への経営転換が1戸となっている。

□ 離脱戸数及び要因の内訳（経産牛飼養頭数規模別）

(単位:戸)										
区分	～99頭	100～199頭	200～299頭	300頭以上	計					
全離脱戸数に占める割合	98.2%	27.3%	38.7%	27.7%	4.5%	1.8%	1.4%	0.5%	0.0%	100.0%
【参考】前年										
	97.6%	31.7%	41.4%	20.5%	4.0%	2.4%	1.6%	0.8%	0.0%	100.0%

(単位:戸)										
区分	離脱要因	～99頭	100～199頭	200～299頭	300頭以上	計				
離農	高齢化と後継者問題	63 (29.2%)	24 (40.0%)	20 (23.5%)	18 (29.5%)	1 (10.0%)	2 (50.0%)	1 (33.3%)	1 (100.0%)	65 (29.5%)
	労働力不足	8 (3.7%)	1 (1.7%)	6 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (25.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	9 (4.1%)
	将来への不安	13 (6.0%)	3 (5.0%)	5 (5.9%)	4 (6.6%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (5.9%)
	負債問題	25 (11.6%)	3 (5.0%)	10 (11.8%)	12 (19.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (11.4%)
	経営者の事故 病気・死亡	19 (8.8%)	3 (5.0%)	9 (10.6%)	5 (8.2%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (8.6%)
	その他	11 (5.1%)	2 (3.3%)	4 (4.7%)	4 (6.6%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (5.0%)
	小計	139 (64.4%)	36 (60.0%)	54 (63.5%)	43 (70.5%)	6 (60.0%)	3 (75.0%)	2 (66.7%)	1 (100.0%)	142 (64.5%)
経営転換	乳雌育成専門	35 (16.2%)	7 (11.7%)	11 (12.9%)	14 (23.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (15.9%)
	畜産部門	14 (6.5%)	8 (13.3%)	4 (4.7%)	1 (1.6%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (6.4%)
	耕種部門	14 (6.5%)	7 (11.7%)	6 (7.1%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	15 (6.8%)
	飼料作物生産	14 (6.5%)	2 (3.3%)	10 (11.8%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (6.4%)
	その他農業部門	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	協業法人化	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	小計	77 (35.6%)	24 (40.0%)	31 (36.5%)	18 (29.5%)	4 (40.0%)	1 (25.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	78 (35.5%)
総計		216 (100.0%)	60 (100.0%)	85 (100.0%)	61 (100.0%)	10 (100.0%)	4 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	220 (100.0%)